

作成/改定日： 2024年10月31日

整理番号 S104946

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	： NIKKOL レシノール LL-20 N
会社名	： 日本サーファクタント工業株式会社
住所	： 栃木県宇都宮市平出工業団地7-14
担当部門	： 技術部
電話番号	： 028-661-6121
FAX番号	： 028-663-0426
メールアドレス	： info-sds@nikkolgroup.com
緊急連絡先	： 日光ケミカルズ株式会社 営業部03-3662-7055
推奨用途及び使用上の制限	：

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	： 分類基準に該当しない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	： 分類できない
急性毒性（経皮）	： 分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	： 分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	： 分類できない
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	： 分類できない
皮膚腐食性／刺激性	： 分類できない
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	： 分類できない
呼吸器感作性	： 分類できない
皮膚感作性	： 分類できない
生殖細胞変異原性	： 分類できない
発がん性	： 分類できない
生殖毒性	： 分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	： 分類できない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	： 分類できない
誤えん有害性	： 分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期（急性）	： 分類できない
水生環境有害性 長期（慢性）	： 分類できない
オゾン層への有害性	： 分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語

危険有害性情報

注意書き

- | | |
|-------|---|
| 【予防策】 | ： 取扱い後はよく洗うこと。 |
| 【対応】 | ： 飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。 |

- 【保管】
 - 【廃棄】
 - 【使用上の注意】
- ：密閉容器に保管すること。
 - ：内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。
 - ：安全データシート（SDS）を参照して下さい。
 粉塵の発生を避ける。微粉末の場合は粉塵爆発の危険性も考えられるので、多量の取扱いには注意する。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	：単一製品
官報公示整理番号（化審法）	：
官報公示整理番号（安衛法）	：
成分及び含有量	：
成分	含有量（%） / CAS RN® / 官報公示整理番号
水素添加大豆リゾリン脂質	100 / 160936-20-9 / -

4. 応急措置

- 吸入した場合
 - 皮膚に付着した場合
 - 目に入った場合
 - 飲み込んだ場合
- ：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 - ：多量の水と石鹼で洗うこと。
 汚染された衣類を脱ぐこと。
 - ：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。
 - ：水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水又は牛乳を飲ませる。
 ただちに医師の診断／手当てを受けること。
 被災者に意識がない場合には、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤
 - 使ってはならない消火剤
 - 特有の危険有害性
 - 特有の消火方法
 - 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置
- ：粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水
 - ：データなし
 - ：燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物等の有害ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。
 - ：火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は、可能な限り風上から行う。関係者以外は安全な場所に退避させる。周囲の設備などに散水して冷却する。消火のための放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。
 - ：消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。燃焼ガスには、一酸化炭素、窒素酸化物等の有害ガスが含まれるので、消火作業では、適切な呼吸用保護具を着用し、煙の吸入を避ける。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
 - 環境に対する注意事項
- ：作業には、必ず保護具（手袋、眼鏡）を着用する。多量の場合、人を安全に退避させる。必要に応じた換気を確保する。
 - ：漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

- | | |
|-----------------|--|
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | ：少量の場合、吸着剤（土、砂、ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等によく拭き取る。大量の水で洗い流す。多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。 |
| 二次災害の防止策 | ：付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。漏出物の上をむやみに歩かない。火花を発生させない安全な用具を使用する。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- | | |
|-----------|--|
| 技術的対策 | ：取り扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 |
| 接触回避 | ：火気注意 |
| 安全取扱い注意事項 | ：作業場の換気を十分行う。保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用。取り扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。 |

保管

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 適切な保管条件 | ：涼しい所／換気の良い場所で保管すること。 |
| 安全な容器包装材料 | ：情報なし |

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

- | | |
|-----------|--------------------|
| 許容濃度 | ：設定されていない |
| 日本産業衛生学会 | ：設定されていない（2008年度版） |
| A C G I H | ：設定されてない（2008年度版） |

設備対策

- ：蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。取り扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

- | | |
|------------|--------------------------------|
| 呼吸器の保護具 | ：通常の取り扱いでは特に必要ない。 |
| 手の保護具 | ：不浸透性保護手袋 |
| 眼、顔面の保護具 | ：側板付き保護眼鏡（必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡） |
| 皮膚及び身体の保護具 | ：長袖作業衣 |

特別な注意事項

- ：データなし

9. 物理的及び化学的性質

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 物理状態 | ：粉末 |
| 色 | ：微黄色 |
| 臭い | ：わずかに特異臭がある |
| 融点/凝固点 | ：データなし |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | ：データなし |
| 可燃性 | ：データなし |
| 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 | ：上限：データなし, 下限：データなし |
| 引火点 | ：データなし |
| 自然発火点 | ：データなし |
| 分解温度 | ：データなし |
| pH | ：データなし |
| 動粘性率 | ：データなし |
| 溶解度 | ：データなし |
| n-オクタノール／水分配係数 | ：データなし |
| 蒸気圧 | ：データなし |
| 密度及び/又は相対密度 | ：データなし |

Proper Shipping Name	:
Class	:
Packing Group	:
IMDG : UN Number	: -
Proper Shipping Name	:
Class	:
Packing Group	:
Additional Information	:
輸送の特定の安全対策及び条件	: ”取り扱い及び保管上の注意”の章を参照。 容器の破損、漏れがないことを確かめる。 荷くずれ防止を確実にを行う。 該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。
緊急時応急措置指針番号	:

15. 適用法令

国内適用法令

化学物質排出把握管理促進法	: 該当しない
化審法（特定化学物質、監視化学物質）	: 該当しない
労働安全衛生法	: 該当しない
毒物及び劇物取締法	: 該当しない
消防法	: 該当しない
高圧ガス保安法	: 該当しない
火薬類取締法	: 該当しない
船舶安全法	: 該当しない
航空法	: 該当しない
その他の法令	:
物質登録情報:	
ENCS(Japan)	: 無し

16. その他の情報

問合わせ先:

会社名	: 日本サーファクタント工業株式会社
住所	: 栃木県宇都宮市平出工業団地7-14
担当部門	: 技術部
電話番号	: 028-661-6121
FAX番号	: 028-663-0426
メールアドレス	: info-sds@nikkolgroup.com
緊急連絡先	: 日光ケミカルズ株式会社 営業部03-3662-7055
引用文献	:

記載内容は作成時点で入手できた資料、データ等に基づいておりましたが、含有量、物理化学的性質などの値は規格値ではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、使用者の責任においてご配慮をお願いします。